

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年7月号



【経営支援課】7/7 「匠の技 伝道師」に認定証を交付

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

| | 頁数 |
|--|-------------|
| I 海草振興局 | 1-2 |
| 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」栽培園地巡回調査を実施～ | |
| 2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～匠の技 伝道師始動～ | |
| 3. みかんマルチ推進キャンペーンに係る実証園を設置 | |
| 4. 本県の果樹産業の現状（クビアカツヤカミキリの被害）出前授業実施 | |
| II 那賀振興局 | 3-4 |
| 1. 重点プロジェクト【モモ産地の生産力強化と病害虫対策】 黄肉ももの生産拡大～中生高品質品種「つきあかり」の栽培推進～ | |
| 2. 岩出市生活研究グループ協議会が地域特産品を使った調理研修会を実施 | |
| III 伊都振興局 | 5 |
| 1. カキの肥大調査 | |
| 2. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び講習会の開催 | |
| IV 有田振興局 | 6-8 |
| 1. みかんの摘果授業を開催！ | |
| 2. シシトウガラシ「ししわかまる」の園地巡回の実施と新パックの検討 | |
| 3. 「温州みかんの果実調査」スタート | |
| 4. 宮原共選組合でみかんの栽培研修会開催 | |
| V 日高振興局 | 9-10 |
| 1. 印南町農業士会が有田地域で研修会を実施 | |
| 2. 日高管内のトビイロウンカ発生状況調査を実施 | |
| VI 西牟婁振興局 | 11 |
| 1. 水稻採種ほ場の審査を実施 | |
| VII 東牟婁振興局 | 12 |
| 1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会が第1回U I ターン就農相談フェアに出展～ | |

| | |
|----------------------------------|--------------|
| Ⅷ 農林大学校 | 13 |
| 1. 夏のオープンキャンパス 2021 開催！ | |
| Ⅸ 就農支援センター | 14-15 |
| 1. 令和3年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講 | |
| 2. 第1回UIターン就農相談フェアを開催（和歌山県JAビル） | |
| Ⅹ 経営支援課 | 16 |
| 1. 「匠の技 伝道師」を認定 | |

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト

【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～「植美」栽培園地巡回調査を実施～

農業水産振興課では、下津地区特産の「貯蔵みかん」に適した新たな品種導入を今年度から推進している。

7月7日にJAながみね職員と下津地区内の「植美」栽培園（苗木2園、高接ぎ4園）を巡回し、樹の生育状況や果実の着果状況を確認した。その結果、裏年にあたる2園地では着果量が少ない状況であった。

今後は、JAながみねと連携して着果量が多かった4園地を栽培展示圃に設置。

樹の生育状況や果実品質調査の継続実施により、「植美」の栽培特性等を明らかにし、産地への導入面積の拡大につなげたいと考えている。



苗木の生育状況



着果状況

2. 重点プロジェクト

【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～匠の技 伝道師始動～

今年度から新たに卓越した技術をもった農業者を「匠の技 伝道師」に認定し、地域の若手農業者等にその技術を継承させていく取り組みを始めた。海草管内からは海南市下津町で温州みかんの連年多収、高品質生産を実践されている橋詰孝氏を推薦し、7月7日にホテルアバローム紀の国で行われた認定式において認定証が交付された。

農業水産振興課では、橋詰氏を講師に、9月「園地巡回研修会」、10月「予備枝設定・枝吊り研修会」、2月「せん定研修会」を開催する予定で、地域の若手農業者等に優れた栽培技術の普及を図っていく。



認定式

とく農家の
温州みかん栽培技術研修会

本県産みかんは、卓越した栽培技術を持つ農家の力を「匠の技 伝道師」として認定しています。
※研修内容は、「匠」匠の伝道師から栽培技術を学ぶと異なる研修です！興味のある若手農業者等はぜひご参加ください。

「匠の技 伝道師」プロフィール
橋詰 孝 氏
所在地：海南市下津町
技術概要：枝吊りによる豊収、高品質生産、予備枝の設定、せん定、高品質生産など

スケジュール（各回 定員20名程度）

| 開催日時 | 内容 |
|---|--|
| 第1回 令和3年9月16日(水)14時～ 予備日：9月22日(水) | 「匠の技 伝道師」の園地巡回 |
| 第2回 令和3年10月21日(水)13時～ 予備日：10月27日(水) | 温州みかん「予備枝の設定」「枝吊り」研修会（10月27日(水)） 園地巡回（高品質生産の研修） |
| 第3回 令和4年2月25日(金)13時～ 予備日：2月28日(月) | 温州みかん「せん定」研修会、園地巡回（高品質生産の研修） |

※参加費は無料です。参加費は、お申し込みの際に案内させていただきます。
※参加費や他の参加費がある場合は、事前に御確認ください。
※研修内容は、今後の変更をさせていただきます。

お問合せ・申込み
農産課の1階農産課まで下記まで申し込み下さい。
電話：073-441-3378 FAX：073-441-3476
E-mail：kayamarketing@pref.wakayama.lg.jp

匠による研修会開催チラシ

3. みかんマルチ推進キャンペーンに係る実証園を設置

温州みかんのブランド価値や品質の向上を図るため、昨年度から巻き上げ方式による『新方式マルチ栽培実証園』を設置し、高品質、安定生産を推進している。

今年度も海草管内ではJAながみね下津柑橘部会員が管理する2園地(①普通温州:6a、②青島温州:15a)を実証園に設定し、7月12日にそのうちの1園地において園主と関係機関職員(JAグループ和歌山農業振興センター、JAながみね、農業共済組合、県)8名でマルチ敷設作業を行った。当日は大雨の中での作業となったが、2年目と言うこともあり比較的スムーズに敷設することができ、園主からは「大勢の人数で作業をしてくれて非常に助かった」、「巻き上げ方式なのでスムーズな開閉作業ができる」と言った感想が聞かれた。

農業水産振興課では、9月に残り1園地でマルチ敷設作業を行うとともに、収穫期にはJAながみねと連携して実証園の出荷点数表や評価データを基にマルチ敷設による果実品質向上や収入アップにつながる効果等の検証を行う。



敷設作業

4. 「本県の果樹産業の現状（クビアカツヤカミキリの被害）」出前授

業の実施

農業水産振興課では、和歌山市立小学校4校(木本小学校(6月21日)、中之島小学校(7月9日)、浜宮小学校(7月13日)、有功東小学校(7月16日)延べ260名)で、「本県の果樹産業の現状(クビアカツヤカミキリの被害)」の出前授業を行った。県内では、様々な果樹が栽培されていることや、モモやウメ、サクラを加害するクビアカツヤカミキリについて説明した。

児童たちは、県産果樹やクビアカツヤカミキリの話に興味深く耳を傾けていた。児童たちにとって身近な木を守るためにも、成虫や被害樹の発見が重要であり、見つけた場合は、先生や保護者に報告してほしいと喚起した。



出前授業の様子(中之島小学校)

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【モモ産地の生産力強化と病害虫対策】

黄肉ももの生産拡大～中生高品質品種「つきあかり」の栽培推進～

農業水産振興課では、桃の中生系品種のレパートリー不足を解消するため、黄肉モモ「つきあかり」の生産拡大に取り組んでいる。紀の川市では約7.0ha（令和元年産）で栽培されており、毎年少しずつ面積は増加している。

「つきあかり」は適期で収穫すると高糖度でジューシーな食味であるが、太陽光が当たると赤く着色してしまい、品種名のイメージを損なうことから、遮光袋を使って収穫期まで栽培している。したがって、収穫するときは果皮色を確認することができず、収穫期を判断するのは手の触感に頼っている。判断を誤ると、過熟や未熟果となり、品質を損なうために収穫適期の判断が問題となっている。

そこで、収穫適期を把握する手段として、かき・もも研究所で試作された、UVカットフィルムを貼り付けたのぞき窓付き果実袋を10園主に試用していただいた。収穫後、園主に対してアンケート調査を行ったところ、「収穫期の判断は果実の張り具合や手の触感で判断するので、のぞき窓は必要ない」「のぞき窓があっても見にくい」などの感想が寄せられた。いただいた意見をもとに果実袋の改良を行う。



収穫期の「つきあかり」



かき・もも研究所の試作袋



慣行の果実袋

2. 岩出市生活研究グループ協議会が地域特産品を使った調理研修会を実施

7月27日、岩出市生活研究グループ協議会（会長：田中典子氏）では、地域特産品を生かした料理の技術研鑽のため、調理研修会を実施し、会員30名が参加した。

毎年恒例の本研修会だが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となっていた。

しかし、今年度は役員で協議した結果、感染予防対策を万全に行った上で実施することとし、開催時期は地域における感染状況を見極めながら決定、また参加人数が多くならないよう、午前午後の2回に分けて行うこととなった。

当日は、岩出市特産のなばな、黒あわび茸、ねごろ大唐を使った料理を中心に、旬の夏野菜を使ったもの、手軽に作れるおやつなど、全部で8品のレシピが用意され、各テーブルに分かれて調理を行った。

調理後は、通常であれば試食して意見交換を行うが、今回は感染予防の観点から、各自持ち帰ってからの試食とした。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、一年以上、協議会活動ができない状態が続いていたが、本研修会で久しぶりに会員同士の交流を持つことができ、参加した会員からは喜びの声が聞かれた。



調理風景



出来上がった料理

Ⅲ 伊都振興局

1. カキの肥大調査

農業水産振興課では、管内柿農家の協力を得て、7月から11月にかけて、月に2回、「中谷早生」、「刀根早生」、「平核無」、「富有」の4品種で8園地の肥大調査を行っている。

果実の大きさが収量に大きく影響するため、ノギスで10分の1mm単位で測定している。

7月1日と15日に調査した結果、果実の一部に灰色かび病の被害が見られるものの昨年に比べて肥大は順調に推移している。

調査結果については、和歌山県ホームページの伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課の柿データベースで公表している。



カキ肥大調査

柿データベース <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130300/20/21/index.html>

2. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び講習会の開催

7月18日、隅田地区公民館において隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾幸八氏）が総会及び講習会を開催し、役員及び関係者が24名出席した。

協議会は、橋本市隅田地域の各地区の区長、橋本市、JA紀北かわかみ、伊都振興局が構成員で橋本市隅田地域の特色に応じた農産物の利用を推進し、活力のある地域づくりに資することを目的に活動している。

総会では全ての議案が原案どおり可決し、今年度も11月に野菜まつり等を開催する計画が承認された。

総会後の講習会では、農業水産振興課の久保普及指導員が草刈り機や管理機、トラクターなど農機具の安全使用について説明を行った。参加者から草刈り機の燃料や伊都地域の農作業事故の発生状況などの質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して協議会活動を支援していく。



農機具の安全使用講習会

IV 有田振興局

1. みかんの摘果授業を開催！

有田市立保田小学校（校長：中西和美氏）では、地元産業への理解を深めるため、3年生（55名）の総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

7月7日、第1回目の学習としてみかんの摘果授業を行った。授業では、萩平普及指導員がみかんの生産量や栽培管理を説明した後、学校付近の園地で有田市農業士会員指導のもと、摘果体験を行った。

児童からは、「どの実を摘果したらいいの？」、「摘果しないとどうなるの？」といった質問が数多く飛び出した。次回は11月に収穫体験とジュース絞り体験を行う予定である。

今後も、農業水産振興課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



みかんの栽培管理について説明



摘果体験

2. シシトウガラシ「ししわかまる」の園地巡回の実施と新パックの検討

J Aありだ蔬菜部会ししとう部門では会員で各園地を巡回、栽培管理法等を比較、確認し研鑽を深めた。会員全員による園地巡回は、例年9月に実施していたが、本年度は収穫初期の段階から各生産者の栽培管理法等を参考にするため、7月13日に実施した。「ししわかまる」は苗の状態も良かったこともあって、病害の発生もなく、定植後の生育がスムーズに進んでいた。昨年度は市場評価が高かったが、従来品種の「葵ししとう」に比べて、草勢が弱く、秀品率が低かったため、収量、秀品率を高める栽培管理が必要とされている。

そこで、農業水産振興課では、従来の放任栽培に近い整枝誘引法から、側枝を短く摘心する整枝法やトンネルの弓を利用し、4本の主枝を吊して誘引する整枝法を紹介し、一部の生産者で取り組みが始まっている。今回の巡回で、相互に意見交換をし、整枝・誘引の重要性について認識が高まった。

また、販売面では従来のシトウガラシと差別化し、認知度を高めるため、試験的に底の黒いパックを使った店頭販売にも取り組んでいる。今後は販売店や消費者の反応を参考にし、新たなパックのデザインを検討していく計画となっている。



会員による園地巡回



底の黒いパックに詰めた
「ししわかまる」

3. 「温州みかんの果実調査」スタート

農業水産振興課では、温州みかん果実の生育状況を確認するため、収穫終了まで15日おきに肥大、糖度、酸度を調査している。本年も極早生、早生、中晩生の品種別に管内の19園地を設定し、7月15日に調査を開始した。

これらのデータは、技術指導の参考とするとともに、公表することで農家自身の栽培管理の指標として役立ててもらっている。

なお、最新の調査結果はWebページ「有田みかんデータベース」にも掲載している。

「有田みかんデータベース」では、過去の果実調査データの他、雨量情報、かん水情報なども見られるようにしているので、まだご覧いただけていない方はページを開いてもらいたい。

有田みかんデータベース <http://www.mikan.gr.jp/>



果実肥大調査



果実品質調査

4. 宮原共選組合でみかんの栽培研修会開催

農業水産振興課では、今年度から宮原共選組合の就農間もない組合員とその家族を対象に技術研修会を年8回程度計画している。本研修は、農業の担い手が不足する中、定年帰農者や兼業を含めた女性農業者等の円滑な技術修得を目的に実施するもの。当初、4月に「病害虫防除について」からスタートする計画であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で7月開催にずれ込んだ。

7月17日に宮原共選会議室で「みかんの摘果について」の研修会を開催し、出席者は研修希望者6名と組合長であった。

先に室内で、顔合わせの自己紹介を行い、萩平普及指導員を講師に摘果方法を基礎から示した資料で説明し、近くのは場において摘果の実演と実習を行った。参加者からは、「組合全体での研修会では聞きづらい、ごく初歩的な質問もすることが出来た」という意見や「摘果の基礎をよく理解できた」という感想があがっていた。



摘果方法の講義



摘果方法の実習

V 日高振興局

1. 印南町農業士会が有田地域で研修会を実施

7月20日、印南町農業士会（会長：片山真吾氏）は、有田地域の特徴的な農業の取組について学ぶため、研修会を実施した。

まずは、あらぎ島（有田川町三田）を訪れた。蓮や芭蕉のある高台からあらぎ島のすばらしい景観を望みながら、あらぎ島景観保全保存会の西林輝昌代表から会の取組や地域のことについて説明を受けた後、意見交換を行った。

次に、株式会社かんじゃ山椒園（有田川町宮川）を訪れ、まず、「田舎カフェかんじゃ」にてランチをいただいた。どれも山椒を活かした料理で、会員らは山椒が意外と様々な食材と相性がよいということに驚いた。

続けて永岡冬樹代表から、会社の取組内容や山椒産地の状況などをうかがった。高齢化により山椒の生産者が減少する中、地域のために若い人の働く場所の確保に取り組んでいること、高品質の山椒を作ることで、ヨーロッパなど世界を相手にできること等、興味深いお話を聞くことができた。また、会員からも様々な質問があり、活発な意見交換が行われた。

その後、有田振興局に移動し、農業生産法人株式会社Citrusの佐々木茂明代表から、会社設立の動機や取組等について紹介いただいた。パワーポイントを用いたわかりやすく興味深い内容で、会員らも熱心に聞き入った。

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの実施となったが、充実した研修会となった。



かんじゃ山椒園



(株) Citrus の取組

2. 日高管内のトビイロウンカ発生状況調査を実施

トビイロウンカは6月頃から中国南部より飛来し、水田に着地した後、イネの株元に住み着く。その後、盛夏から秋口にかけて水田内で急激に増殖し、イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は「坪枯れ」を引き起こす。

県では、昨年と一昨年に多発したことに加え、令和3年は飛来時期が平年に比べ早く、虫数も多い傾向で推移していることから、今秋も「坪枯れ」の発生が懸念されていた。

そこで、7月28日、日高野菜花き技術者協議会（会長：大野隆之氏、構成員：JA紀州、JAグループ和歌山、暖地園芸センター、日高振興局）では、トビイロウンカ発生状況を的確に把握し早期の防除につなげるため、会員10名が調査を実施した（写真1）。

今回の調査では、各市町3～4園地、日高地域で合計24園地の水田を選定し、1園地25株について、イネの株元を2～3回たたくことでウンカを虫見板にはたき落とし、虫数をカウントした。

調査の結果、トビイロウンカは御坊市の1園地で確認されたのみで、日高地域全体の1園地平均虫数は0.04頭となり、ほとんど発生が見られなかった（表1）。

本害虫は8月以降の発生が懸念されることから、調査を継続し早期の防除対策につなげていく。

表1 日高地域トビイロウンカ発生状況
(調査日:令和3年7月28日)

| 調査市町 | 調査園地数 (園地) | トビイロウンカ ※ 平均成虫・幼虫数(頭) |
|-------------|---------------|--------------------------|
| 御坊市 | 4 | 0.25 |
| 美浜町 | 4 | 0.00 |
| 日高町 | 4 | 0.00 |
| 由良町 | 3 | 0.00 |
| 印南町 | 3 | 0.00 |
| みなべ町 | 3 | 0.00 |
| 日高川町 | 3 | 0.00 |
| 日高地域 | 24 | 0.04 |

※ 25株当たり虫数を示す



写真1 発生状況調査

VI 西牟婁振興局

1. 水稻採種ほ場の審査を実施

県では、水稻の優良種子の生産確保並びにその円滑な流通を推進することを目的に、和歌山県農業協同組合連合会、J A紀南とともに生産者への採種ほ場の設置依頼と巡回指導および審査を行っている。

採種ほ場は田辺市中辺路町と上富田町に計4か所設置し、「キヌヒカリ」、「ミネアサヒ」、「きぬむすめ」の3品種を作付けしている。7月7日に関係職員4名が巡回し、ほ場審査を実施したところ、生育は平年並みからやや遅い状況であった。昨年はトビイロウンカが県内の水田で多発し、坪枯れ被害も発生した。今年は、中国大陸から日本国内への飛来が平年と比べて早く、飛来量も多い傾向にある。そこで予察灯での誘殺状況を生産者と共有し、防除における注意点を確認した。

また7月29日には生育の早いほ場において、出穂期のほ場検査を実施し、病虫被害や異種・変種の混入がないか、J A紀南営農指導員、農業水産振興課の村畑普及指導員と木村技師が調査した。

当課では今後とも関係機関と協力し、収穫期までの生育状況を確認するため、巡回指導を予定しており、適切な水稻採種ほ場の栽培管理を指導していく。



ほ場審査（田辺市中辺路町）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】

～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～

7月11日、第1回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催され、みくまの産地協議会（構成員：JAみくまの、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町役場）のブースに2組2名が訪れた。

大阪府在住の相談者は、新宮市に移住しイチゴ栽培を希望しており、当協議会での支援・助成やJA・県のサポート体制等について問い合わせがあった。

農業水産振興課浅井・橋本普及指導員は、みくまの産地協議会での現況の受入体制を紹介するとともに、準備資金面では農業次世代人材投資事業（準備型・経営開始型）を、イチゴ栽培技術の修得にはくろしお苺生産販売組合の研修を説明した。併せてその他生産施設に対する補助事業等も紹介した。

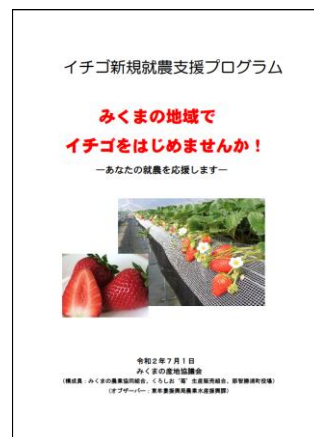
さらに、JAみくまの営農経済部笹平主事からは、農業の基礎技術や管内農作物の栽培技術習得支援としてJAトレーニングファームの研修を説明した。

なお、昨年度の第2回UIターン就農相談フェアの相談者のうち1名（大阪市からのIターン者）は、産地面談会を経て、今年6月から当協議会の研修先のJAトレーニングファームと地元のイチゴ栽培農家で研修中で、来年6月には就農予定である。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



みくまの産地協議会での就農相談



イチゴ新規就農支援プログラム



みくまの産地提案書

Ⅷ 農林大学校

1. 夏のオープンキャンパス 2021 開催！

7月22日、来年度の学生募集に向けた「夏のオープンキャンパス2021」を農林大学校農学部で開催した。

入試概要の説明などのオリエンテーションから始まり、学生による学校生活や学科・コース紹介の後、ラジコン草刈り機とスピードスプレーヤー、農薬散布用ドローン等の最新機械の展示および映像により紹介した。

実習・演習プログラムでは、園芸学科果樹コースの実習としてブルーベリーの収穫と、アグリビジネス学科の果実を使った加工品（ブルーベリーソース）作りを実施した。

今後は8月3日及び10日にも実施し、各回で園芸学科野菜・花きコースの実習や、パッケージデザインおよび農業経営者となって天候やその他のリスクに対応したり、輸出や6次産業化にチャレンジするゲーム形式の経営者体験を実施する予定となっている。

令和4年度入学生の募集については、推薦入試が9月14日、一般入試（前期）11月11日、一般入試（後期）2月9日からそれぞれ願書受付を開始する。



学校紹介



スマート農機の説明



ブルーベリーの収穫体験



加工品づくり

IX 就農支援センター

1. 令和3年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講

7月3日、ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）が開講した。新型コロナウイルス蔓延防止措置による影響で約2ヶ月遅い開講となった。今回の研修生は12名であり、“自分の畑で果樹や野菜を作りたい”、“有機農業に取り組みたい”などの思いで、週末を利用し農業の初歩的な知識や技術を学ぶ（今回は計6日間に短縮）。

初日は開講式が行われ、中谷所長が挨拶を行った。その後、「農薬の安全使用・農作業安全」、「ウメの栽培」、「ブドウの栽培」の講義の後、「農機具の取り扱い」について実習を受けた。今後、果樹、野菜、花きの栽培方法や栽培管理などの基礎知識を学ぶ。



ウイークエンド（第1班）開講式



農機具の取り扱い



アスターの調製



大玉スイカの収穫

2. 第1回UIターン就農相談フェアを開催（和歌山県JAビル）

7月11日（日）、和歌山市の和歌山県JAビルで第1回UIターン就農相談フェアを開催した。前回同様新型コロナウイルス感染症予防対策のため、完全予約制の運営とした。さらに検温の実施、アルコール消毒、飛沫防止用アクリル板の使用など徹底した対策を取り相談フェアを実施した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま定住サポートセンターなどを含む、13団体14個の相談ブースを設け、県内外から多数の相談者が参加した（県内13名、県外13名）。県内で就農を考えている相談者から、「就農についてアドバイスが欲しい」、「研修のはじめ方について」、「補助金・農地について」などの質問が寄せられ、それぞれの質問に対応した。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に就農支援センターの研修を修了し、現在県内の農業法人でミカン農業に挑戦している方を講師に招いた。“法人就農に至るまでの経緯”、“就農して良かったこと・苦労したこと”などについて話しを聞いた。

相談会全体を通し、「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。



UI ターン就農相談フェア全体会場



県農業相談ブース



新規就農セミナー

X 経営支援課

1. 「匠の技 伝道師」を認定

県では、今年度からの新たな取り組みとして、農業に従事されている方が有する卓越した農業技術を着実に次世代に繋いでいくため、「匠の技術伝承事業」を創設した。

「匠の技 伝道師」を認定し、認定者が有する技術の継承を希望する方を募集し、研修によりその卓越した技術を受け継いでいただくことで、本県の農業従事者のスキルアップを図る。初めての認定となる今年度は7名を認定し、7月7日に認定証交付式を開催した。

今後は、地域ごとに認定者による講演会や座談会等を開催した後、研修受講を希望する方とのマッチングを行う。農業従事者の方がスキルアップすることにより、農業経営の強化、延いては地域農業の発展に繋がることを期待する。



認定証交付式

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4931 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |